

幼稚園におけるしつけ

南 信 子



一、しつけの伝統

「しつけ」というのは「新しく仕立てた衣服の折目をならす為に糸で粗縫にぬいつけておくこと」これが語源の意味であるといわれているが、日本におけるしつけの伝統をたどってみると、以前は種々の広い意味内容をもっていたようである。例えば一つの職業に関する技術を身につける為に、丁稚奉公をする少年が、師匠・親方から叩きこまれるその職業・集団の特有のしきたり、仁義、つきあい、ふるまい振り、起居動作、行儀などを修得することをしつけと称していたし、或る地方では子どもへの教育費を「しつけ銀」とよんでいたようである。しかし最近では、その所属する社会や集団に適應するように、礼儀作法を身につけさせるといふ、かなり限定した意味に使われていることが多い。またしつけの多くは幼児期に、家庭で身につけさせる行儀作法をさしており、その方法は、語源の意味のように、外側からおしつけることによつて、行動様式を習慣化・形態化しようとする傾向が強いように思

われる。しかしいずれにしてもこれを広い意味の教育の一方式と解することができると思うが、教える、育てる、指導するなどのことばと比較して考えると、しつけるという事は、外側からの働きかけが最も強いことが特長であり、どちらかといえば外面的で、しかも「習うよりは慣れる」で教えるというよりも、教えこむといった他律的強制的な意味が感じられる。型にはまった行儀作法を、反復及び不快の原理にたつて、一方的におしつけるといったしつけの考え方は、たしかに封建的であり、そのまま今日に適用されないかもしれない。しかし新しい時代にしつけが不要なのではない。むしろ今日こそ、もっとしつけの問題が真剣に考えられてよいのではないかと思う。少年の不良化、青年の犯罪など、今日の多くの問題の背後に、あやまったしつけ、或いはしつけの無力さがひそんでいようように思われてならない。それでは新しい時代のしつけは如何にあらべきか、そのあり方について考えてみたい。

二、新しい時代のしつけ

新しい時代のしつけの重要性を考えると、特に幼児期におけるしつけの必要がもっと強調されなければならないことを思う。

幼児期は人間の行動の型が形成され、生活習慣がみにつき、物と人とに対する本質的な把握をなし、ものの見方、感じ方、考え方がみにつく重要な時期である。この時期にすべての子どもが、しつけによって望ましい行動様式や、生活習慣をみにつけ、新しい時代の生活の仕方を学ぶとともに、社会の一員として、その責任を意識するように成長することを助けなければならないのである。このような意味でしつけは必要である。

しつけは常にはつきりした積極的な意味をもっていなければならない。単なる両親の虚栄から「そんな事をして人から笑われませよ」といった外面的なしつけは、あやまった行動の基準を教える結果となるだけである。人間の基本的な幸福、安全、健康の為にしつけは必要なのである。

またしつけは相手が幼い子どもである為に、りくつでその意味を理解させることができない場合が多いが、それでも一方的にただ叱って矯正したり、おしつてたりするのではなく、子ども自身の成長発達の種類、性質、能力、関心度などを、愛情にみちたあなたがい気持で理解し、またすぐれた科学的な態度で理解しようとしながら指導することが大切である。そして彼らがやがて自らすすんでその意義を知って行動するように導かれることが必要である。

しつけの内容によっては形式を与えることによってその内面的な発達を助け、或るものは内面的な発達とともに自由な形式を創造することも可能であると思う。文化の型は国家により、家庭によって異なる場合も多いので形式にとらわれない自由さも必要である。

しつけを行なう人には、一貫した愛にねぎした精神が必要である。反抗期に直面している子どもを扱う時には特に深い心づかいがなければならぬ。感情に支配されず、子どもをおどさず、はずかしめず、不安におとしいれず、しかもわがままにせず、甘やかさず、人格を尊重しつつ祈り心をもってこれにあたるのが望ましい。それと同時に、しつけられる子ども達もまた、その人々から深く愛されていることをよく感じ、知っていなければならない。

新しい時代のしつけは、広い意味の生活指導に他ならない。「しつけはまわり道を」ということばがあるが、意味ぶかいことばであると思う。成長期の子どもは順応性にとんでいようであるが、彼らに望ましい行動様式を一方的に早くみにつけさせようとしても、なかなか困難である。しつけには忍耐が必要である。同じ注意を幾度も繰り返さなければならぬことが多いが、常に最短距離をねらって、いらいらしてはならない。望ましい行動様式が習慣化されるにも、それは成長のリズムの中で行なわれ、準備体制がととのえられる時を待たなければならぬし、行動にあらわれる外面的な結果のみを早く期待せず、内面的に成長することをまたなければならぬのである。そこで、しつけを助ける音楽や文学、絵画製作などの豊かなよい経験をさせることも非常に大切である。落ち着きのない

子どもでも、おしごとになると非常に集中力を発揮することがある。よい童話の中で子ども自身が問題を治療することもある。お行儀のわるい子どもがままごとの中でよいお行儀をおぼえることもある。乱暴な子どもが小鳥を飼育することによってやさしい心を持つようにもなる。あせらずにままごの方法によってこのしつけの問題を考えることが必要である。きりはなされた一つひとつの行動の習慣化、形態化ではなく、その子どもの全人格、全生活の指導こそ、新しい時代のしつけでなくてはならない。

次に幼稚園における具体的なしつけの内容にふれて考えてみたい。

三、幼稚園におけるしつけ

④基本的習慣の形成と身のまわり事に独立する為のしつけ、を第一に以下順をおってのべる。幼児期は、清潔、食事、睡眠、排泄、着衣などに関する基本的習慣の自立する時であるから、幼稚園においてこの為のしつけを徹底させることが必要である。

特にこうしたしつけは集団の中でよく習慣化されるので、よい環境をととのえ、奨励を与え、反復させながら忍耐をもつてしつけなければならぬ。幼稚園では歌やリズム、絵画製作などと同じように、手を洗うことや歯をみがくこと、みのまわりの整理や整頓、所有品の責任、遊びの材料の片づけ、着たりぬいだりすること、その他、排泄や食事のよい習慣がみにつく為に力をそそがねばならない。この時期についた生活習慣は一生涯

を支配することを忘れてはならないと同時に、こうした身のまわりの事に独立することは、その子どもの生活に安定感と自信を与える源となることを知らなければならぬ。

⑤通園に関するしつけ

幼稚園生活は子どもにとってはじめて独立して通園する機会である。右側交通や、信号の厳守、或る程度の行動の敏捷さ、注意深さなども徹底して訓練されることが望ましい。だんだん通園に乗物を利用することも多くなるが、順序よく乗ることが車中の礼儀などもみにつけることが大切であるし或る時間、たっていること、歩くことなどの訓練もこの時期に必要である。或る国では決して車中で子どもに席をゆずらないといわれているが、学ぶべき事である。子どもを大切にすることが甘やかすことであつたり、訓練の機会を失うことであつてはならない。

⑥遊びや仕事に関するしつけ

子どもの生活はすべて遊びであるといつてよい。遊びは或る時には仕事の要素をもっているかもしれない。いずれにせよ子どもの生命である遊びや仕事を通して、子ども達の行動の型が形成されてゆくのである。自主的に選択し、思考し、計画し、創意工夫するか、それとも依存的で無思慮、模倣的であるか、或いは遊びに没頭できるか、注意散漫であるか、活動的で積極的であるか、それとも反対に非常に消極的であるか、こうした行動の型が、この時代の遊びの中で知らず知らずのうちに形成されてゆくことを知らねばならない。性格的に弱い点を勇気づけて助け、よい行動

の型が形成されるように望ましい方向づけの為に努力し、環境をとのえ指導することが大切である。

(d)他の人々に対する態度のしつけ

幼稚園生活は子どもにとって、はじめての他の人々に接する機会であるといつてよい。他の人々に対して尊敬と信頼をもつことや、お互いに愛しあわなければならないこと、よい社会を創り出す責任があることを、友達との遊びの中で教え、その態度をみにつけるように導くことに咨さかであつてはならない。自己統制力をもたないわがままな態度、暴力をふるったり、人の邪魔をしたりする反社会的な態度、反対に無口、無反応、不安、恐怖、劣等感、集団に不参加などの非社会的態度、これらは皆家庭におけるあやまったしつけによっておこる事が多いが、幼稚園においては、これらの問題の解決の為に研究を怠つてはならないし適切な指導法の発見に心をくだかなければならない。集団生活の中で、特に先生や友達に対して尊敬と信頼をもち、絶えず明るい平和な雰囲気をつくり出す人として成長するように、社会的な態度をみにつけさせる為のしつけをあやまつてはならない。

(e)ことはのしつけ

ことはその人の人格のあらわれであるといつてよいが、幼児期は言語発達の著しい時であり、この時期に一通りの話しことはをみにつけるから、この時期にことばの指導を充分にしその人格形成に役だてなければならぬ。欧米では幼児期に *How*

are, *Thank you* ということばのしつけを徹底して教えるが、学ぶべき点であると思う。また人の話をきくことと話すことが充分にできるようにしつけることが大切である。今日のおとなの中でも本当によい対話のできる人は少ない。一方的に勝手に話し、正確にきき答えることも少なく、その結果、本当の対話にならない場合が多い。幼児期に、ことばを通して考え、問題を解決し、自己表現をする為に、また他の人々との交りの楽しさを経験する為に、ことばのよいしつけが必要である。最後に集団訓練について考えたい。

① 集団訓練

幼稚園におけるしつけは幼稚園という集団の社会的制約性に順応させ、これに合目的な行動様式を形態化・習慣化させることをも考えなければならないが、集団生活の中で、静粛にすることや注目すること、必要な時に挙手、起立、整列をしたり、おじぎをすること、危急の場合の待避訓練などにも速やかに応ずることができるように訓練することが必要である。しかしこれらは子どもの体力や能力に深い洞察がなされて行なわれなければならないと同時に、その必要性がきらかにされなければならないと思う。以上、幼稚園におけるしつけのいくつかの具体的な内容にふれてきたが、これらは皆、家庭におけるしつけと一貫性をもつことが必要であることは論をまたない。また家庭と幼稚園、社会が協力して、明日の世界を創り出す子どものしつけにあたらなければならないことを痛感する。

(北陸学院保育短期大学)